

かどがわ ひがた
門川の干潟ガイドブック

阪本竜也 編

宮崎大学農学部附属
次世代農学教育研究センター延岡フィールド

干潟は潮が引いたときに現れる、特殊な環境です。干潟には特有の生物たちが生息し、それらの活動により干潟生態系が維持され、水質浄化などの機能が発揮されています。しかしながら、埋め立てなどの人間活動により、干潟の面積は日本各地で減少しています。

干潟は、様々な生物の観察を通して、生物の多様性を学ぶことのできる場所でもあります。彼らの本来の姿を知っていただきたく、自らフィールドで撮影した写真の掲載にこだわりました。このガイドブックを通して、皆さんに干潟へ少しでも関心を向けていただければ、こんなに嬉しいことはありません。

生物調査にあたり、庵川漁業協同組合および門川町役場に便宜をはかっていただきました。調査、証拠標本の管理および保管、出版作業にあたっては、内田勝久附帯施設長、村瀬敦宣准教授、および道下保技術職員に便宜をはかっていただきました。調査・出版に関しては、令和7年度に合同会社ミミスマスおよび門川町役場が実施した事業である「チャレンジ・応援 門川ラボ」、および門川町より委託を受けて実施する連携事業「門川の水辺の魅力総合発信プロジェクト」の助成を、就学に関しては、独立行政法人国際協力機構「JICA海外協力隊帰国隊員奨学金事業」の支援を受けました。上述のご支援・ご協力が無ければ、このハンドブックの出版は不可能でした。心より御礼申し上げます。

2026年1月 阪本竜也



←トビハゼ。干潟の水辺にみられる。近づくと、ピョンピョンととびはねて逃げる。寒い季節は巣穴で冬をこす。小さなカニなどを食べる。

- (1) 干潟ってなに? 1-2ページ
- (2) なぜ潮は満ち引きをくりかえすの? 3-4ページ
- (3) 干潟のはたらき：川からの水をきれいに 5-6ページ
- (4) 門川町の干潟と危ないポイント 7-8ページ
- (5) 干潟に行く！その前に 9-10ページ
- (6) 干潟の生きものを観察してみよう！ 11-15ページ
- (7) 干潟を守るには、どうすればいいだろう? 16ページ
- 掲載種リスト 17ページ
- 参考資料および書籍情報 18ページ

トビハゼくん

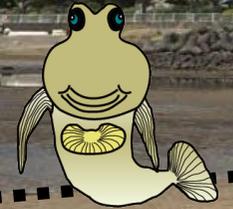


ぼくはトビハゼ！
ひがた
門川の干潟について、
いっしょに学ぼう！

イラスト：阪本竜也（宮崎大学）・清山美咲（合同会社ミミスマス）

(1) 干潟ってなに？

干潟は、川や海から運ばれてきた泥や砂が、河口（川と海が交わる場所）やその近くの海岸に積もることのできる、平らで広い地形。潮が満ちたときには水の底となり、潮が引いたときには陸地となる。

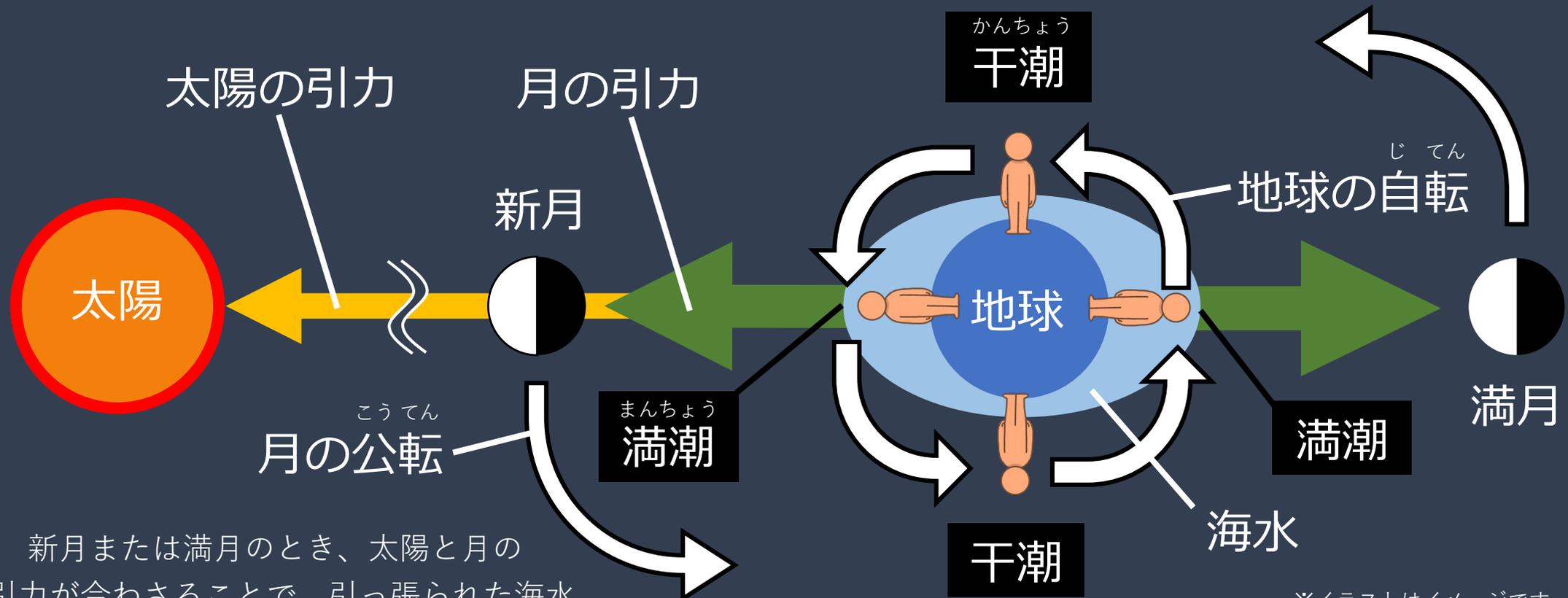


潮が満ちたとき、このあたりまで海になるよ！

干潟は毎日水にしずみ、干上がることをくりかえしますが、その度合いは太陽と月の位置によって変わります（くわしくは次のページ）。塩分が上下したり、陸地となるあいだは、日の光があたることで干潟の温度が上がり、地面の表面はかわいてしまいます。そのため干潟は生きものにとってはきびしい環境ですが、そこにくらすことのできる生きものがたくさん集まって、干潟の生態系がつくられています。

(2) なぜ潮は満ち引きをくりかえすの？

ほっきょくがわ
↓ 太陽、月、地球を上（北極側）からみた図



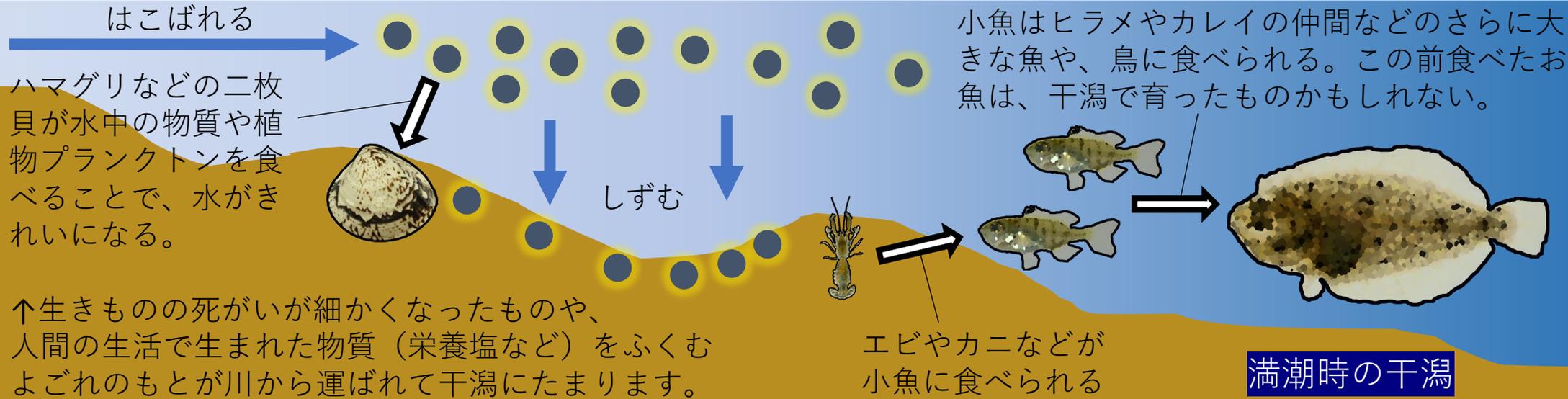
新月または満月のとき、太陽と月の引力が合わさることで、引っ張られた海水がラグビーボールのような形になります。地球は回る（自転）ため、潮が満ちるとき（満潮）と潮が引くとき（干潮）が、地球の同じ場所で一日のうちにそれぞれ約2回ずつおとずれます（上図）。さらに、月が地球の周りを一周する（公転）のに約24時間50分かかるため、満潮と干潮の時間が毎日約50分ずつずれていきます。太陽・地球・月の位置が直角に近づくほど、太陽と月の引力は打ち消し合い、潮の満ち引きは小さくなります。

※イラストはイメージです。

**満月や新月の日をふくむ
数日の間は潮の満ち引きが大きく、
おしお
大潮とよばれているよ！**

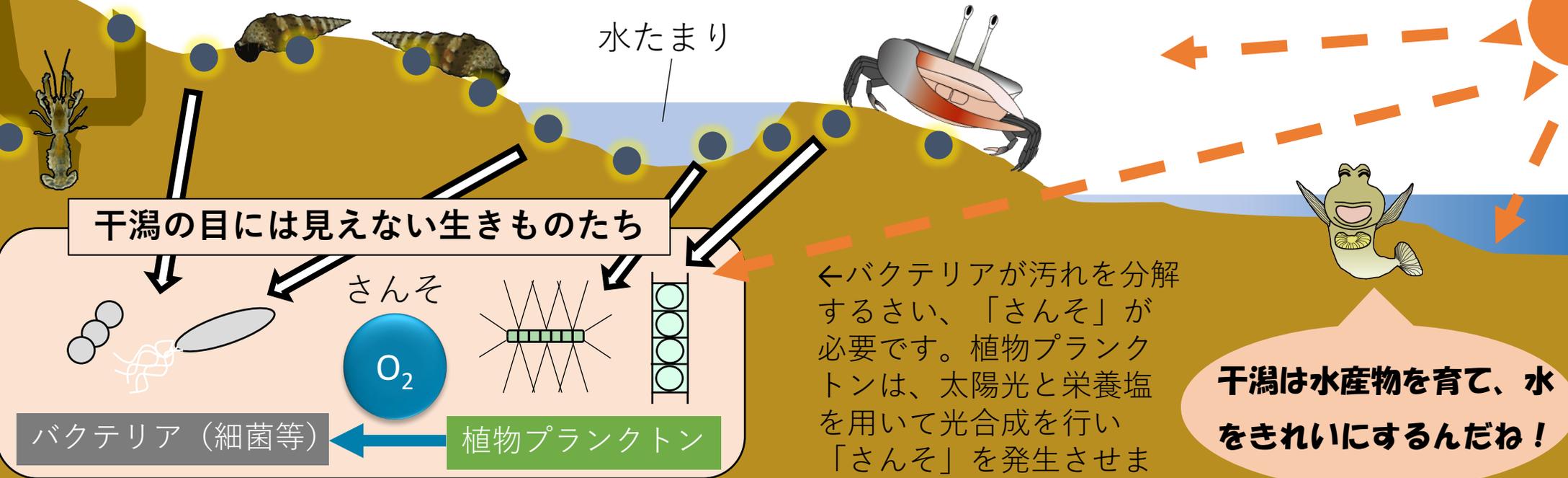


(3) 干潟のはたらき：魚や貝を育て、水をきれいに🌟



↑生きものの死がいや細かくなったものや、人間の生活で生まれた物質（栄養塩など）をふくむよごれのもとが川から運ばれて干潟にたまりま

↓潮が引いたとき、カニや貝などが干潟の地面に積もった物質を食べます。



(4) 門川町の干潟と危ないポイント

②庵川西（丸バエ川河口含む）



門川では、主に①鳴子川の河口、②庵川西、③庵川において干潟がみられます。

干潟の危ないポイントと、**あてはまる干潟**は以下の通りです。

- ・ **泥が深い場所**：大人のひざまで埋まることも。水が深い場所だと、おぼれるリスクがあります。

→ ①、②（丸バエ川河口部）、③（新川付近）

- ・ **地面や地中のカキのから、ガラス・金ぞくのかげら**：泥の量が比較的少ない場合でも、足をとられて転んだ際に、これらにさわってケガをするおそれがあります。

→ ①、②、③すべて



*新川の河口内部（水門の下）には干潟はみられない。

(5) 干潟に行く！その前に

- ・夜よりも昼に潮が引く、**春か夏**に行こう！
- ・干潟へ行く日の潮の満ち引きの時間を、インターネットや釣具店で潮見表を買って確認しよう！**最も潮が引く時間の前後合わせて2時間ほど**がオススメです。
- ・次のもちものを用意しよう！



その他：

飲み物、手洗い用の水、タオル、暑さ対策グッズ、虫かご、救急箱など

↑マリンシューズや長靴、軍手または手袋も必要。
けが予防のため、できるだけ肌をかくそう。

- ・あれば便利なもの
動画撮影用機材、防水性デジカメ、双眼鏡、バケツ、生物観察ケース、など

注意！

- ・許可なくハマグリ、ボラ、ウナギをつかまえることは禁止されています。これらは干潟やその周りで見られますので、注意しましょう。くわしくはインターネットで**宮崎県漁業調整規則**をチェックしよう！
- ・水が深い場所、泥が深い場所には行かないようにしましょう。**泥は、水の流が穏やかなところにたまる**ことが多いです。
- ・雨の日やその翌日は干潟に行かないようにしましょう。**河口は増水する危険があります。**
- ・子どもだけで行かないようにしましょう！
- ・つかまえた生きものは、観察を終えたら**つかまえた場所と同じところに逃がそう！**



**潮は思っているよりも
はやく満ちるので注意しよう！**

(6) 干潟の生きものを観察してみよう！

～干上がった地面～



干潟の地面の上だけでなく、転がった石の下や植物の間にも生きものがあります。探して観察してみよう！



←ハクセンシオマネキ。泥っぽい地面につくられた巣穴から出てきた。左のオスが、大きなハサミをふって右のメスにアピールしている。

→コメツキガニ。干潟の砂地に巣穴がみられた。穴の周りには、このカニが食べ残しでつくった砂団子がたくさんある。



つかまえるコツ：小さな砂団子を見つけたら、近くに彼らの巣穴があるかもしれない。彼らが出てくるまでじっと待ち、穴からはなれた時をねらって、穴を手ですばやくふさごう。

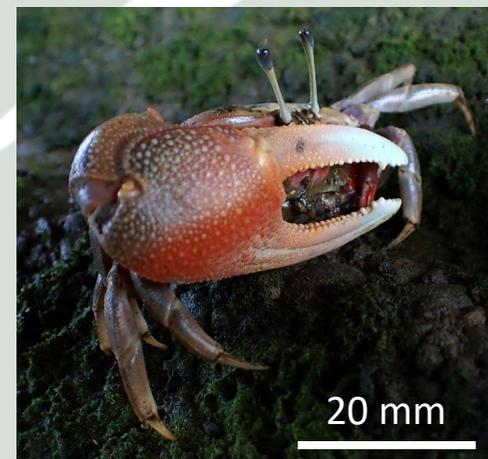
→クロベンケイガニ。ブロックの中にかくれていた。昼間、大きなカニはこのようすき間にかくれている。



↑アシハラガニ



↑ハマガニ



↑シオマネキ

大きなカニをつかむコツ：手あみをかぶせて動きを止めて、甲らの両側をつまんで持とう。



←このようにもつと、カニのはさみは指に届かない（クシテガニ、はさみあしの赤色が美しい）。



←まき貝のウミニナ・ヘナタリ類。門川の干潟ではたくさん見られるが、ヤドカリが入っていることもよくある。

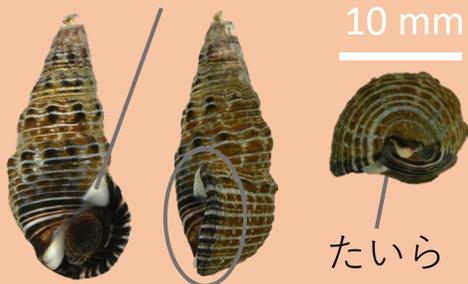
ウミニナ・ヘナタリ類の種類を見分けてみよう

(各種標本写真、左：貝がらの出口正面から、真ん中：出口正面の約90度横から、右：真下から撮影)

①ウミニナ

UMNB-M
00043 (*)

白い部分幅広い



出口の外側はへこまない

②イボウミニナ

UMNB-M
00064

白い部分はせまい



上がへこみ、下が前が出る

③ヘナタリ

UMNB-M
00051

つぶがたて・横に並ぶ



かくばる

へこまない

各種の分布

- ①：陸側を好む。門川では石が多い場所でもよくみられる。
- ②：海の近くの砂・泥地にみられた。
- ③：海側を好む。門川では砂や泥地にみられる。

～水たまり・流れ込み～

干潟には、水たまりができたり、陸から水が流れ込むことがあります。水が無い場所とは異なる生きものが生息しています。また、泥、砂や石の多さによっても、生きものの種類が変わります。

水たまり



流れ込み



写真：庵川の干潟



←アラムシロ、というまき貝。干潟の水辺を動き回り、えさとなる動物の死がいを探す。砂・泥地に多い。

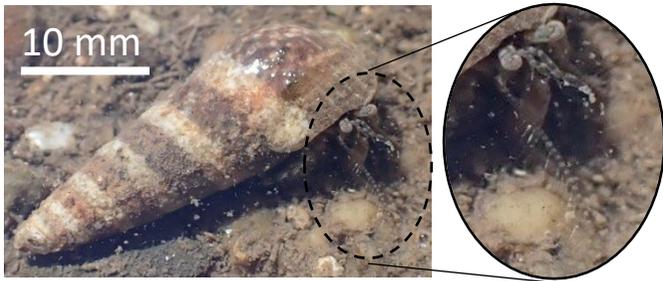
→マメコブシガニ。甲らのはばが1センチほどの小さなカニ。前に歩くことができる。砂・泥地でみられる。



←ユビナガホンヤドカリ。長い触角（しょっかく）にはしまもようがある（左写真）。

ヤドカリの入った貝がらを手でもっていると、ヤドカリが顔を出すことがある（右写真）。

* UMNB-Mおよび数字：宮崎大学に保管されている貝類標本の標本番号



←テナガツノヤドカリ。触角は短く、鳥の羽毛のような毛が生える。



ぼく以外にも、
いろんな魚がいるよ！

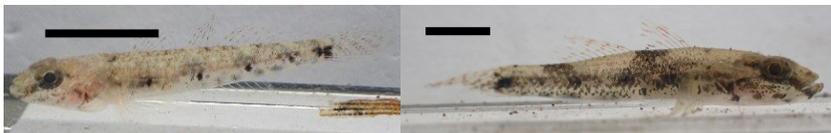
※写真中の黒い線は大きさ10 mmを示す



↑左から、クモハゼ、クロコハゼ、タネハゼ。門川の干潟では、石が多い場所で石をめくるとみつかると。



↑左から①アベハゼ、②マサゴハゼ、③ツマグロスジハゼ。これらは似ているが、①は体の後半に2本の黒い線があり、③は体にスジのようなもようが入る。門川の干潟では、いずれも砂や泥地の水たまりにみられる。



↑左から、①ヒメハゼ、②ウロハゼの子ども。①は尾びれの付け根の黒点が2つに枝分かれする。門川ではどちらも流れ込みにみられるが、①は砂っぽい環境に、②は泥がまじる砂底の、石などの下にいる。

(7) 干潟を守るには、どうすればいいだろう？

日本の干潟の面積は埋め立てなどにより、1945年から全体の約40%が減少し、今では多くの干潟の生きものの絶滅（ぜつめつ）が心配されています。

干潟の環境（底質・塩分など）のちがい



多種多様な生きもの
(生物多様性)

干潟のおしごと
(5,6ページ)

干潟内部の環境のちがいにより、ことなる生きものがあらわれることで干潟全体の生物多様性が高まり、干潟のはたらきが保たれ、私たちの生活が支えられています。つまり、干潟一つ一つだけでなく、干潟内の環境のちがいも大切だといえます。では、干潟を守るために、私たちには何ができるのでしょうか。



少しでも、ぼくらや干潟のこと、
知ってくれとうれしいな！

和名	学名	絶滅危惧カテゴリー	
		環境省	宮崎県
トビハゼ	<i>Periophthalmus modestus</i>	NT	VU
タネハゼ	<i>Callogobius tanegasimae</i>		
アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>		
マサゴハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>	VU	
クモハゼ	<i>Bathygobius fuscus</i>		
クロコハゼ	<i>Drombus</i> sp.		
ウロハゼ	<i>Glossogobius olivaceus</i>		
ツマグロスジハゼ	<i>Acentrogobius</i> sp.		
ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>		
テナガツノヤドカリ	<i>Diogenes nitidimanus</i>		
ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>		
マメコブシガニ	<i>Pyrhila pisum</i>		
アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>		
ハマガニ	<i>Chasmagnathus convexus</i>		
クロベンケイガニ	<i>Orisarma dehaani</i>		
クシテガニ	<i>Parasesarma affine</i>		VU
コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>		
シオマネキ	<i>Tubuca arcuata</i>	VU	CR
ハクセンシオマネキ	<i>Austruca lactea</i>	VU	NT
ウミニナ	<i>Batillaria multiformis</i>	NT	EN
イボウミニナ	<i>Batillaria zonalis</i>	VU	CR
ヘナタリ	<i>Pirenella nipponica</i>	NT	NT
アラムシロ	<i>Nassarius festivus</i>		

※絶滅危惧カテゴリー：CR（絶滅危惧IA類）、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの；EN（絶滅危惧IB類）、IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの；VU（絶滅危惧II類）、絶滅の危険が増大している種；NT（準絶滅危惧）、現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology. 2026. Biological Information System for Marine Life: <https://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/>（参照：2026-1-19）.

Koyama, A. 2022. Coastal Fishes in Tidal Flats and Salt Marshes. In: Fish Diversity of Japan: Evolution, Zoogeography, and Conservation (eds. Y. Kai, H. Motomura & K. Matsuura), pp. 379-394. Springer Singapore, Singapore.

環境省. 2020. 環境省レッドリスト 2020：
<https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf>（参照：2026-1-19）.

菊池泰二. 1993. 干潟生態系の特性とその環境保全の意義. 日本生態学会誌, 43: 223-235.

気象庁ホームページ. 潮汐の仕組み：
<https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/db/tide/knowledge/tide/choseki.html>（参照：2026-1-19）.

真木英子・大滝陽美・富山清升. 2002. ウミニナ科1種とフトヘナタリ科3種の分布と底質選好性：特にカワアイを中心にして. Venus (Journal of the Malacological Society of Japan), 61(1-2): 61-76.

三浦知之. 2008. 干潟の生きもの図鑑. 南方新社, 鹿児島. 197 pp.

宮崎県レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会. 2015. 宮崎県の保護上重要な野生生物 2020年度三訂・宮崎県版レッドリスト：
https://www.pref.miyazaki.lg.jp/documents/9795/9795_20221118092204-1.pdf（参照：2026-1-19）.

本村浩之. 2026. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 33. <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.html>（参照：2026-01-19）.

中坊徹次（編）. 2013. 日本産魚類検索全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野. 1 + 2428 pp.

大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター. 2008. 干潟を考える 干潟を遊ぶ. 東海大学出版会, 神奈川. 159 pp.

渡部哲也. 2014. 海辺のエビ・ヤドカリ・カニハンドブック. 文一総合出版, 東京. 104 pp.

門川の干潟ガイドブック

ISBN：978-4-909630-06-3

発行日：2026年1月31日

編著・写真撮影：阪本竜也

発行所：宮崎大学農学部附属次世代農学教育研究センター・延岡フィールド
〒889-0517 宮崎県延岡市赤水町376-6

印刷所：ラクスル株式会社

〒106-0041 東京都港区麻布台一丁目3番1号 麻布台ヒルズ 森JPタワー 19階

Citation: Sakamoto, R. 2026. Illustrative guide to tidal flats in Kadogawa Town, Miyazaki Prefecture, Japan. Nobeoka Marine Science Station, Center for Innovative Agriculture, University of Miyazaki, Miyazaki, Japan. 18 pp.



表・裏表紙写真：庵川西の干潟